



住民が目指す
お産できる鹿角
しんぶん

No. 1 2018. 3. 23

鹿角の産婦人科を守る会

鹿角市花輪字上中島155

鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会

鹿角市花輪字寺ノ後36-2

お産できる鹿角へ

かづの厚生病院の産婦人科医師を引き上げ、お産を大館市立病院に集約する話が進む中、去る3月4日、鹿角市コモッセにおいて「お産ができる鹿角を望む住民集会」が開催され、130人が参加しました。住民はもちろん、行政も病院も「お産できる鹿角」が共通の思いであることが確認され、力を合わせて産婦人科医師を探すことになりました。



医師と見えつかればお産を再開

集会前段30分間は、鹿角市主催の「住民説明会」として、秋田県・鹿角市・厚生病院長が事態と方針を説明しました。「分娩集約」の背景には、①出生数の減少、②医師不足、③安全分娩体制の3点があること。大館市立病院の受入体制ができた第、秋ごろには「集約化」することなどが語られました。ただし、三者ともに「鹿角に来てくれる医師を探す」

集会で住民の思い共有

その後の「住民集会」では、妊娠中の人、妊婦さんの夫、出産経験者など5人の住民代表が壇上から「思い」を語り、フロアからもたく

手厚い子育て支援

鹿角は、予約のない託児も受入れるなど、以前から「手厚い子育て支援」

ディアも注目しました。

医師探し全国に発信

には定評があり、官民が力を合わせて「人口問題」にチャレンジしている地域。誰しも事の重大性を肌で感じています。一方、先ごろ「住民運動に共感する精神科医師2人が赴任」という嬉しいニュースも流れたばかり。住民集会には数多くのマスメディアも注目しました。集会の最後に、主催する2つの住民団体から提案された「これからの行動」。①住民は「お産ができる鹿角」を望んでいることをあらゆる場面でアピール、②産婦人科医師を探す、③地域で医療を支える方策を皆で考える、の3点が参加者の承認を得ました（裏面）。

これからの行動

① 住民は「お産ができる鹿角」を望んでいることをアピールしましょう

- ☆ 一番大事なのは「住民の意思」をはっきりと示し、ぶれず、あきらめないことです。
- ☆ 「お産ができなくてもいいや」と、住民があきらめてしまえば、その瞬間、鹿角は「お産ができない地域」として確定してしまいます。
- ☆ ほとんどの住民が「鹿角はお産ができる地域でありたいと思っている」ということが、言葉や数字などで明らかになれば、誰だって、それを無視することはできません。
- ☆ 世論調査、アンケート、街頭インタビュー、投書、知事への手紙、新聞への投稿、ラジオへのリクエスト、SNSなど、あらゆる機会を使って、「住民はお産ができる鹿角を望んでいること」を、広く、いつまでも、繰り返しアピールしましょう。

② 全国に発信して「鹿角に来てくれる産婦人科のお医者さん」を探しましょう

- ☆ 「大学まかせ」にせず、住民自身の手で産婦人科のお医者さんを探しましょう。
- ☆ 精神科の場合、県・市・町・病院・市民町民の会の5者連名で「医師を求めるチラシ」を作成。全国406ヶ所に置いてもらい、毎年、追加・補充もお願いしました。それを12年間続けて、ようやく「鹿角に来てくれる医師」を見つけました。
- ☆ 北海道遠軽地区（遠軽町、佐呂間町、湧別町）では、行政が中心になって、関西・首都圏の電車に宙吊り広告を掲載。また、全国9,700人の医師にダイレクトメールを送るなどの努力が実り、ゼロだった産婦人科医師が2人に増えました。
- ☆ 住民の思いに共感してくれる医師はかならずいます。

③ 「地域で医療を支える」ための様々な方策を考え出しましょう

- ☆ 医師は「魅力ある病院」か「魅力ある地域」で働きたいと考えています。さしあたり住民として出来ることは「魅力ある地域」をつくることです。
- ☆ また、以前は、何でもかんでも「医師にお任せ」という傾向がありました。これを機会に、住民自身で出来ることを考えましょう。
- ☆ 精神科の場合は、「相談・訪問・連携」を目的とした、住民による「こころの健康センター」の設立を模索しています。新しく赴任する医師とも十分に相談する必要はありますが、具体化を目指して準備を進めています。
- ☆ 住民のネットワークを生かし、持っているアイデアや情報を出し合ひましょう。
- ☆ 一口に「お産」と言っても、子どもの性教育、若者の出会いの場、子どもが産める生活基盤、子育て、家族や仲間の応援、ベテランの知識、人間への愛など、全住民が関係しています。みんなで「医療を支える」ための様々な方策を考え出しましょう。